

県立勝田高等学校自己評価表

目指す学校像	・心身ともに健やかで、気力に満ちた有為な人材を育成することに努める学校。 ・生徒の自立心を伸長し、公正な判断力と健全な批判力を高め、豊かな人間性を培うことに努める学校。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
・学習指導 生徒は概ね積極的に学習に取り組み、意欲も増している。予習復習をしている生徒は 46%にとどまる。自発的な学習習慣の定着化を図ることが課題である。 ・進路指導 組織的・計画的・継続的な進路指導を行う。キャリア教育を推進する。AO・推薦入試受験者の増加に伴い、AO・推薦入試指導を改善する。 ・生徒指導 生徒の大部分が規律を守り、落ち着いた生活を送っている。規範意識の一層の向上を目指す。交通関係の事故を無くすべく、交通安全指導の充実を図ることが課題である。 ・特別活動 部活動加入率は 80%を超え、生徒会活動、部活動等概ね活発である。生徒の主体的参加を促し、部活動の一層の活性化を図ることが課題である。		開かれた学校づくり	① 情報発信を積極的に進め、保護者や地域社会との連携に努める。		
		確かな学力の涵養	② 学習の習慣化を図るとともに、自発的に学習に取り組む意欲の向上に努める。 ③ 国際教育の充実を図り、広い視野と豊かな教養の涵養を図る。		
		進路指導の充実	④ 組織的、計画的、継続的な進路指導の充実に努める。 ⑤ 授業内容と方法について研究改善を加え、生徒が進路希望を実現できる学力をつけ、より高いレベルでの進路実現を図れるようにする。 ⑥ 適切な勤労観、職業観の育成を図り、主体的な進路選択能力の向上に努める。		
		豊かな心の育成	⑦ 道德教育を推進し、各種規則を遵守し、自他の生命を尊重する意識の高揚を図る。 ⑧ HRや生徒会活動、部活動等をより充実させ、自主・自立の精神の高揚を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	基礎基本の定着を図る。	練習問題等を積極的に課し、反復して学習するように指導する。			
	指導方法を工夫し、評価方法の適正化を図る。	言語活動の充実を図り、学習指導方法の向上に努めるとともに、教員相互で授業参観をする機会を設け、より一層の授業の充実を図る。			
		観点別評価の方法について研修を行い、教員間で共通理解を図る。			
		学習の習慣化を図る。	各自の学習の記録をつけさせることにより、家庭学習の取り組み方法を改善するための指導を行う。		
	予習・復習の定着をはかるような授業方法の改善に努める。				
	進学意識の高揚と学力の向上を図る。	入試問題や模擬試験問題を積極的に活用する。			
授業時間以外の課外等の充実を図る。					

別紙様式 2 (高)

	国語	基礎学力の向上を図る。	入門期の指導を徹底し、高等学校の学習への速やかな移行を促す。			
			小テストや週末課題等で反復指導を行い、語彙力・文法・読解等の基礎力の定着を図る。			
			資料・テキスト等を活用した丁寧な授業を通して、深く考察する姿勢を養う。			
		大学入試に対応できる学力を養成する。	模擬試験終了後の解答及び解説を行い、苦手項目の克服を図る。			
			課外授業等を通して、解答を導く力の養成を図る。			
			問題集を課題とし、多くの演習を行うことで、応用力の充実を図る。			
	地歴 公民	基礎学力の向上を図る。	古典の学習を通して、先人の知恵や教養、日本古来の文化に触れる。			
			現代文の学習を通して、多様なものの見方に触れ、思考力の育成を図る。			
		大学入試に対応できる学力を養成する。	ノート、課題等を提出させることにより、学習状況を確認し、授業の改善に努める。			
			小テストや問題演習等を数多く行うことで、基礎基本の定着を図る。			
			早朝・放課後・長期休業中の課外等の実施により、豊富な知識と応用力を養成する。			
			大学入試問題や模擬試験の問題を研究し、授業や試験問題の作問に活かす。			
	数学	基礎学力の向上を図る。	模擬試験の解説により、大学入試の傾向を伝える。			
			国家・社会の形成者としての意識を醸成する			
			主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を養成する。			
		大学入試に対応できる学力を養成する。	授業目標・評価方法等を明確に生徒に示し、シラバスに基づいた計画的かつ継続的な学習指導を行う。			
			課題として授業・課外の内容の基本演習を課し、基本演習の充実を図る。			
			定期考査や模擬試験後の問題の解答解説の充実を図る。			
	理科	家庭学習の習慣の確立を図る。	教育課程の改訂にあたり、入試を見据えた授業を展開するとともに、生徒一人一人の進路に応じた学力を養成する。			
			放課後、土曜日及び長期休業中の課外に継続性を持たせる。			
			授業や課外での、模擬試験等の問題演習や解説を通して、応用力を身につけさせる。			
		進路希望に対応できる学力を養成する。	各科目の導入期に、予習・復習の重要性について指導を徹底する。			
			家庭学習の習慣化を図るために、小テストや演習等を実施する。			
			家庭学習の必要性と効果が実感できるような授業を展開する。			
	保健	体力の向上を図る。	定期考査や小テスト等にセンター試験・2次試験の内容を反映させ、かつ実施後の復習も丁寧に行う。			
			模擬試験について、過去問の演習や実施後の指導を拡充する。			
			早朝、放課後及び長期休業中に課外等を実施し、実力の養成を図る。			
		健康の保持・増進ための実践力を育成する。	自己の能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指す。			
			技能や体力を高めるために、運動の合理的な行い方を身に付けさせる。			
			個人生活や社会生活における、心身の健康への関心を喚起する。			
			自ら健康で安全な生活を実践できるような態度を育成する。			

別紙様式 2 (高)

	芸術	音楽活動の基礎的な能力を高める。	歌唱、器楽、創作、鑑賞の音楽の幅広い活動を通して、音楽を形づくっている要素を知覚・感受させる。			
			表現活動に積極的に取り組むことができるよう、基礎的な技能を高める。			
			我が国の伝統音楽や世界の名曲を鑑賞することで、音楽文化についての理解を深めさせる。			
	外国語	基礎学力の向上を図る。	早期に中学履修事項の定着を図り、高校の学習内容につなげる。			
			小テストや演習を定期的実施して、学習効果を高める。			
			週末課題等の実施・提出を通して、学習習慣を確立させる。			
		大学入試に対応できる学力を養成する。	生徒一人ひとりの進路希望に応じた、課外や個別指導を実施する。			
			2年次から入試問題対策演習を段階的に実施し、実力の向上を図る。			
			生徒が各自の課題を明確化し、効果的に学習を行うため、外部試験を活用する。			
	家庭	英検合格者の増加を目指す。	英検課外を積極的に行い、学習効率を高め、合格者を増やし、英語学習への意欲を喚起する。			
		基礎・基本の充実を図る	生活科学の考え方に基づいた、基本的な知識と生活技術を身に付けさせる。			
			家庭生活上のさまざまな課題を解決する能力を身に付けさせる。			
		豊かな心の育成を図る。	家族問題や少子高齢化による現状と課題を知らせ、自他の生命を尊重する行動がとれるように、実習をとおして考えさせる。			
			食事や服装等において、T P O に応じた適切な行動がとれるようにする。			
		食育の充実を図る。	栄養に関する基本的な考え方を学び、主体的に食の管理ができるようにする。			
		自立と社会参加を促す。	社会の変化(健康問題・消費者問題・環境問題等)に関心を持たせ、個々の問題に対して、生活者として問題解決の仕方を身につけさせる。			
	情報	情報活用の実践力を育成する。	Word・Excel・PowerPoint について、実習をとおして基本的なコンピュータ技術の習得に努める。			
		言語活動の充実	情報通信ネットワークとコミュニケーションについて理解させ、プレゼンテーション活動をとおして、自己表現力や他者理解について指導する。			
		情報社会に参画する態度を育てる。	情報が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる。(プライバシー・著作権・情報モラル)			
			各種メディアから進路に関する情報を収集・整理し、自己の在り方生き方について主体的に考えさせる。			
教 務	授業時間の確保に努める。	指導方法の改善に資する評価を行う。	各授業時間の実施状況を確認し、授業時間の確保に努める。			
			始業5分前の登校・授業のチャイムスタートを徹底する。			
			年間計画(シラバス)を生徒に配付し、授業の目標・学習方法・評価方法を明確に生徒に示す。			
			評価方法に関する研修会を実施し、指導と評価の一体化に努める。			
	開かれた学校づくりをめざす。		観点別評価方法に基づき適切な評価をする。			
			ホームページを定期的に更新するとともに、他の校務分掌、学年と連携し、詳細な情報を保護者、地域に発信するように努める。			

別紙様式 2 (高)

		中学校との情報交換を行い、連携強化を図る。			
		より多くの中学生が本校に関心を持つように、学校説明会の内容の検討と運営方法の改善を図る。			
		学校評議員会をとおして、学校運営全般に関する意見を積極的に聴取する。			
	情報処理環境を充実させる。	情報機器の更新等、機器の整備を図る。			
		校内ネットワークにおける情報管理を徹底化する。			
		成績処理を中心とした、生徒情報の管理システムを安定させる。			
進路指導	進路指導行事の充実に努める。	K T及びL H Rの時間を利用し、進路学習を行う。			
		O Bによる職業講演や卒業生による体験講話を聴講する。			
		大学見学会や大学模擬授業を、計画的に行う。			
		学年集会で、進路学習を行う。			
		外部講師による進学講演会を行う。			
		進路資料の充実。			
	チャレンジ 6 0 〔国公立大+難関私大合格者数 60 名以上〕	教師の授業力向上をねらいとして、授業内容と方法について研究改善を行う。			
		個に応じた学習指導を研究し、週末課題等を改善することで、生徒が自発的に学習に取組む態度を養う。			
		学習状況調査等を実施し、生徒の学習状況に関する情報を共有し、指導に活かす。			
		土曜日に課外を実施する。			
	キャリア教育を推進する。	学習館を学習のために開放することで、自学自習の習慣化を図る。			
		A O入試・推薦入試等指導体制を拡充する。			
生徒指導	生徒の実態把握に努め、問題行動の早期発見・未然防止に努める。	看護体験など、校外での体験研修等の充実を図る。			
		被害調査を定期的実施する。			
		校内・校外巡視を実施する。			
	規律ある生活態度を育成するとともに、社会の形成者としての資質の向上を図る。	生徒指導講話（非行防止）を実施する。			
		服装・頭髪指導の徹底を図る。			
		遅刻指導・授業のチャイムスタートの励行を図る。			
	交通安全の充実を図る。	校外のキャンペーンの参加や、特別活動部と連携した校内でのあいさつ運動の展開を通して、マナーの向上に努める。			
		通学路における登下校指導の徹底を図る。			
		交通安全講話の実施、啓発プリントの発行等を通して、交通安全意識の高揚と事故時の対応力の向上を図る。			
特別活動	部活動の振興により、心身の健全な育成を図る。	自転車点検を定期的に行い、交通事故の未然防止を図る。			
		新入生へのガイダンス等において、魅力ある部活動紹介を実施する。			
		運動部・文化部の指導者の適切な配置を行う。			
		指導者の資質の向上を図る。			

別紙様式 2 (高)

		施設設備の充実を図る。			
	特別教育活動に参加する生徒の意識の向上と内容の充実を図る。	主体的な生徒会活動の促進を支援する。			
		充実した学校行事の企画・運営を行い、生徒の積極的な参加を促す。			
		各種委員会での生徒の主体的な活動を支援する。			
教育相談	面接の充実を図る。	担任と生徒の面接週間を年2回設定し、問題点を把握し、早期解決ができるようにする。担任から依頼された生徒及び自主来談者の面接を積極的に行い、効果を上げる。			
	職員研修の充実を図る。	職員研修会を年に1回実施する。教育相談に関する資料や情報を教職員に広報することにより、問題を共有化して理解を深める。			
	SCを積極的に活用する。	担任とスクールカウンセラー(SC)の連携を深化させることにより、問題を有する生徒への早期の対応を図る。問題の多様な見方を促し、その解決の方策を担任(学年)と共に探る。			
保健厚生	環境整備及び美化に努める	年間2回の清掃用具の点検や日常的なチェックを徹底し、清掃用具の充足を図る。			
		学校全体で日常的な清掃の徹底に努め、環境の美化に努める。			
	心身の健康増進を図る。	健康診断を通して、生徒個々人の健康状態の把握に努める。			
		保健指導を適切に行い、健康情報を提供する。			
		健康診断の補助や係活動を通して、保健委員会活動の充実を図る。			
	防災・安全点検等を推進する。	防災訓練を通して、防災意識を高め、災害時に迅速な避難行動が取れるようにする。			
	各種奨学金制度の周知及び手続きの徹底を図る。	定期的に安全点検を実施し、安全な生活環境の整備に努める。 各種奨学金制度の案内を校舎内及び教室等に掲示し、生徒の関心を喚起する。 奨学生希望者に対する説明会を行い、遺漏のないよう努める。			
図 書	本に親しむ習慣の育成を図る。	「図書館だより」を毎月1回以上発行し、本への興味を高め、読書の習慣を身に付けさせる。			
		生徒・教員から図書購入希望を随時受け付け、そのニーズに応えることで、本をより身近なものにさせる。			
	図書館環境の整備を図る。	図書館内外の環境を整備し、落ち着いて読書できる雰囲気づくりに努め、図書委員の推薦図書コーナーを設けるなど図書委員会の活性化を図る。			
	校内外への情報の発信を積極的に行う。	生徒・保護者に「図書館だより」を配付し、本校の図書館の現状を理解していただく。特に新入生には図書館の利用指導を行い、積極的な利用を呼びかける。			
	視聴覚機器の整備を図る。	視聴覚機器の整備・点検を行い、委員会活動を活発化させ、放送内容を充実させる。			
渉 外	PTA活動の活性化を図る。	PTA総会における保護者の出席率を高めるための企画を検討する。			
		地域社会に根ざした学校教育を目指し、PTA活動の企画を検討する。			
		広報誌「たらさき」を通し、本校の教育活動の広報を充実させる。			
	役員の資質の向上を図る。	高P連主催の各種大会や研修会等に参加し、他校の実践活動の情報収集に努める。			
		先進校視察等の研修会の企画を検討し、進路に対する情報力向上に努める。			
	各種委員会活動の活発化を図る。	生徒指導部と連携し、さわやかマナーアップキャンペーンや登校指導を行う。			
		視察研修の一環として、東京都内の大学キャンパス見学等の企画を検討し実践する。			
		広報紙「たらさき」の内容充実にも努め、積極的に保護者と地域社会に発信する。			

別紙様式 2 (高)

第 1 学年	基本的生活習慣の確立を目指す。	高校生らしい挨拶や制服の着用を目指す。			
		教室、廊下等の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。			
		遅刻防止や授業のチャイムスタートを徹底し、時間を守る生活を身につけさせる。			
		提出物等の提出期日や規則等を守らせる。			
	進路意識の育成を図る。	「進路サポート」等を利用し、進路研究の活発化を目指す。			
		大学見学会を実施するとともに、大学説明会、オープンキャンパス等への積極的な参加を促す。			
		学年集会や講演会を実施し、進路に関する情報を積極的に提供し、生徒一人一人の適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。			
	基礎学力の確立を目指す。	「予習・授業・復習」を中心にした学習習慣の確立を目指す。			
		「家庭学習の記録」を活用して、家庭学習の習慣化を図る。			
		週末課題（英・数・国）、朝学（英・国・数・理・語彙読解）を実施する。			
		課外授業、模擬試験、学習講座を実施する。			
	保護者との連携の強化を図る。	保護者会を実施する。			
		保護者との連絡を密にし、問題の未然防止に努める。			
		ホームページや学年だより等で、進路や学年の情報を定期的に発信し、保護者との連携・協力体制の確立を図る。			
		心身に問題を抱えた生徒を早期に把握し、適切な対応をとる。			
	道徳教育の推進を図る。	発達段階や実態を踏まえて、豊かな人間性、社会性を身につけ得る機会を設ける。			
第 2 学年	基本的生活習慣の確立を目指す。	高校生らしい挨拶や制服の着用を目指す。			
		教室廊下等の清掃の徹底や私物の管理等、学習環境の最適化を図る。			
		授業のチャイムスタートを厳守させる。			
		提出物等の提出期日や規則等を守らせる。			
	進路意識の育成を図る。	進路指導部と連携して、大学見学会・進路講演会・大学模擬授業等を実施し、進路情報を積極的に提供する。			
		総合的な学習の時間を活用して、進路に関する調査・研究を計画的に行い、将来の職業を意識した主体的な学習活動ができるようにする。			
		個人面談を活用し、進路に関する悩みに答えて不安を解消させ、安心して学習に取り組めるようにする。			
	基礎学力の定着と課外の充実を目指す。	自主学习課題を通して、自己学習能力の育成を図る。			
		話を聴く姿勢を向上させ、毎時間の授業を大切にする態度を育成する。			
		週末課題、朝学等を実施し、学力の定着を確認する。			
		課外を実施し、学習意欲を高める。			
	団体生活の充実を図る。	模擬試験を活用して、学習の弱点を認識させるとともに、応用問題に触れさせる。			
		団体生活（ホームルーム・修学旅行・生徒会・委員会・部活動等）をとおして、社会生活での			

別紙様式 2 (高)

	保護者との連携・協力体制の確立を図る。	行動や責任について考えさせる。			
		進路や学年の情報を積極的に発信する。			
		保護者進路説明会や保護者面談を十分に活用し、学校と保護者との協力体制の強化を図る。			
		成績、欠席等で問題のある生徒については、保護者との連絡を特に密にする。			
第 3 学年	基本的生活習慣の確立を目指す。	発達段階や実態を踏まえ、豊かな人間性、社会性と協調性を身につけさせる。			
		高校生らしい挨拶や制服の着用を目指す。			
		授業のチャイムスタートを徹底させる。			
		教室等の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。			
	進路実現のための指導の工夫を図る。	提出物等の提出期日や規則等を厳守させる。			
		進路指導部と連携して講演会・説明会を実施し、生徒・保護者に対して進路に関する情報を積極的に提供する。			
		学習館・進路指導室・サテライン室の積極的な利用を促す。			
		模擬試験や個人面談を有効に活用することで、生徒一人一人の適性、能力等に応じた進路指導の徹底を図り、希望の実現に努める。			
		総合的な学習の時間を利用し、リスニング・小論文指導を計画的に実施する。			
	課外の充実と生徒が積極的に学習できる環境づくりを目指す。	土曜日、日曜日、休日に学習館を開館し、生徒が自主的に学習できる環境を整える。			
		放課後、早朝、土曜日、長期休業中に課外を実施するとともに、指導内容の充実を図る。			
	保護者との連携・協力体制の確立を図る。	進路や学年の情報を積極的に発信する。			
		保護者進路説明会や保護者面談を十分に活用し、学校と保護者との協力体制の強化を図る。			
		成績、欠席等で問題のある生徒については、保護者との連絡を特に密にする。			
		心に問題を抱えた生徒を早期に把握し、適切な対応をとる。			

※ 評価規準 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：不十分である。